

大きな被害を受けた果樹

4月の凍霜害の状況について説明を受けた。

【経過】

今年4月に発生した降霜により、白鷹町において、サクランボ、リンゴ、アケビを中心に大きな被害が発生している。

【被害状況】

着果（実が付く）量は、主なものとしてリンゴが0〜80%、サクランボが10〜20%、アケビが20%以下。

質疑

対策は

委員 被害を受けた方で共済などに加入していない方もいるのか。
当局 収入保険や果樹共済などに、それぞれの判断で加入していない方もいる。現在確認中である。

委員 何らかの対策を講じていただきたい。

町長 どのように支援できるか調査し、他自治体の動向も見ながら、農家の意欲減退にならないようにしていきたい。

ほかの品目の被害は

委員 3品目以外の被害は。

当局 ぶどうは30%〜半分程度の着果量。アカスモモはほとんど着果していない。ラ・フランスは3割程度の被害ではないか。

委員

県の対策パッケージは対象品目が決まっており、被害状況で対象に制限がある。アカスモモは大切な町の生産品であり、県とは別に検討できないか。

返礼品の対応は

当局 アカスモモで生計を成している方がどの程度いるか把握していきたい。

委員 被害品目にはふると納税の返礼品もあると思うが、どのような対応をしていくか。

当局 ブドウは例年通りの量が出荷できないとしてストップしていると聞いている。そのほかの品目は把握していない。



【事業・決算の概況】

コロナ禍の影響でさらに厳しい結果に
一般財団法人白鷹町アルカディア財団の経営状況について説明を受けた。
(11ページに関連記事)

コロナ禍の影響は甚大であり、年度初めに「感染症対策本部」を設置し、緊急事態宣言の発令に伴う施設休業や利用者・従業員の感染拡大防止対策を図り、売上げ減少に対する検討を行った。

しかし、宿泊・飲食サービスマイブ全体が大変厳しい経営を余儀なくされ、その影響により宿泊や宴会の予約が入らず、当期一般正味財産増減額は、約5372万円の赤字となった。

質疑

人件費を削減

委員 人件費削減の内容は。

当局 雇用調整でアルバイトやパートの人数

を一時的に削減したものが表れていると思う。

町長 コロナ禍が収まらなければ厳しい判断になる。委託料も無限には出せない。専門家の意見もいただながら、様々な視点から検討し判断したい。コロナ禍が終息すれば状況は戻るという思いはある。

事業分離の検討は

委員 財団の経営の中で公共施設の管理運営事業を分け、独立性を備えて運営した方がいと思うが。



その他
○白鷹町子育て支援住宅整備事業
○白鷹町都市計画用途地域の見直しなどについて説明があった。